

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 森川 真子

論 文 題 目

Relationship between social support during pregnancy and postpartum depressive state: a prospective cohort study

(妊娠期のソーシャルサポートと産後の抑うつ状態との関係：前向きコホート研究)

論文審査担当者

主 査

委員

名古屋大学教授

小川 豊昭



委員

名古屋大学教授

志川 史隆



委員

名古屋大学教授

松井 知之



指導教授

名古屋大学教授

尾崎 信子



論文審査の結果の要旨

今回、妊娠中のソーシャルサポートが産後の抑うつ状態に影響を与えるかどうかについて前向きコホートをを用いて調査した。まず、サポートを評価する質問紙である Social Support Questionnaire (SSQ) 日本語版 (Japanese version of SSQ: J-SSQ) の周産期女性における標準化を行った。その上で、サポート提供者の「人数」およびサポートに対する「満足度」について、それぞれ産後抑うつに与える影響に違いがあるかどうかを検証した。結果、妊娠中に母親をサポートする「人数」が多いほど、産後抑うつに対し保護的な作用をもたらすことが示唆された。さらに、妊娠中に抑うつ状態を呈した女性群の方が、サポート提供者が多いことによる保護的効果がより高いことが示された。サポートの「人数」および「満足度」、と産後抑うつとの関係には乖離があることが示された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 近年の脳画像研究において、受けたソーシャルサポートに対する評価は脳内のモノアミン活性と関連することが報告されており、本研究においても抑うつ群の女性はサポート提供者の「人数」およびサポートに対する「満足度」両者を有意に低く見積もった。しかし、本研究では交絡因子である抑うつ状態を補正してもなお、妊娠中のサポート「人数」は産後抑うつ状態に影響を与えていた。つまり妊娠中のサポート提供者の「人数」は産後抑うつに影響を与える心理社会的要因の一つと考えられた。また妊娠中の「抑うつ状態」は産後抑うつに最も強く影響しており、元来抑うつ状態になりやすいといった脳機能の脆弱性も産後に抑うつ状態となりやすい要因の一つと考えられる。
2. 産後抑うつに対する、妊娠期の「人数」と「満足度」の結果の乖離について、「人数」に関しては今回初めての検証であり、「満足度」については有意な関連を認めないという先行研究と一致していた。この乖離については、先行研究において「人数」と「満足度」は異なる要因、特に性格特性が関連していると言われている。「人数」の寡多はソーシャルネットワークの大きさに関連していると考えられる。小規模のネットワークに対して高い満足度を有することは依存性に関連している可能性があり、依存的なパーソナリティ特性が抑うつ状態に関連するという先行研究に一致している。
3. 陽性反応的中率が 0.50 であり、区分点の設定が十分吟味されていない。また自記式のスクリーニングツールであるため、精神医学的診断のためには診断面接を行う必要がある。簡易な状況把握のツールとしては適しているが高得点者に対する対応整備がまだ不十分なため、施行後の対応体制づくりが課題である。

本研究は、周産期うつ病の予防的な介入方法を確立する上で、重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	森川真子
試験担当者	主査	小川豊昭	吉川史隆	松村敦
	指導教授	尾崎 公之		

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. この研究における、産後うつ病の生物学的要因・心理社会的要因について
2. サポート「人数」が関連し、「満足度」が関連しなかった点に関する考察
3. Edinburgh Postnatal Depression Scaleの問題点について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、精神医学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。